

●太平洋に点在する一二の島嶼国家は、近代化とグローバル化の狭間に揺れ続けている。これら「脆弱国家」の現在と「国家再生」への住民の活動をつぶさに描く。

# オセアニアの人類学

## ——海外移住・民主化・伝統の政治

神戸大学 須藤健一 著

オセアニア島嶼国はいずれも、未発達な国家アイデンティティと政治基盤のために「脆弱国家」あるいは「失敗国家」といわれてきた。二一世紀になってからも、多くの社会的混乱が起きている。くしくも、二〇〇五年には、三カ国で大きな出来事が相次いだ。フィジー諸島共和国では、政府の国家財政の透明性を求める四度目のクーデターが、ソロモン諸島国においては、政治家の不正にからむ暴動が発生した。そして、トンガ王国では、人民（平民）の経済的困窮に配慮しない政府の構造改革に対してゼネラル・ストライキが、そして翌年には暴動が起きた。これらの動きは、国民が国家運営に対する政府の姿勢を問い、正している点で共通している。

オセアニアの島世界には、一九六二年のサモア独立国（旧西サモア）の独立以降、九四年のパラオ共和国の独立までに一二の島嶼国家が誕生した。これらの国々は、近代国家としての体裁を整えるべく、とりわけ政治的自律と経済的自立に向けて努力している。政治の面では、憲法の制定、立法・行政・司法など民主主義に基づく制度を整備してきた。植民地期には経験したことのない民主的な政体を樹立する一方で、伝統的な指導者や首長の位置づけが大きな問題となっている。首長が担ってきた権威・権力と役割を、新しい国家の政治機構といかに接合ないし並存させるかという課題である。

一方、経済的分野においては、旧宗主国や先進国からの財政援助や経済支援なしでは、国家運営が立ち行かない状態が続いている。そのような環境の下で島嶼国家のエリートたちは、グローバル経済への参入と競合の方法を求めている。具体的には、外国資本の誘致、プライベートセクター（民間企業）の創生、人口増加と都市集中化の解決など、国家の経済的自立を達成するには多くの難問が立ち、だかっている。

本書では、グローバルな政治・経済的、そして文化的な影響を受けながらも独自の国家運営や近代化を進めているオセアニア島嶼国の現在の姿を描くと同時に、独立以降に顕在化してきた「国家のゆがみ」を正す住民の活動について考察することを目的にしている。（まえがきより）

### 目次

序

- 第一部 ポリネシアの海外移住と民主化運動
- 第一章 海外移住と母社会の近代化
- 第二章 移住者の「トンガラしさ」へのこだわり
- 第三章 立憲君主国の民主化運動
- 第四章 ストライキと政治改革

- 第二部 ミクロネシアの伝統政治の現在
- 第五章 首長がコントロールする政治
- 第六章 人と政治を動かす土地
- 第七章 ヤップと離島のネットワーク
- 第三部メラネシアの資源開発と保護
- 第八章 国家の森林開発に抗する村落社会

あとがき  
参考文献  
索引・写真図表一覧

体裁  
A5判・上製・カバー  
三〇四頁  
定価  
四二〇〇円  
(本体四〇〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14 九  
電話〇三(三八二八)九二四九  
http://www.fukyo.co.jp

発売  
風響社 TEL: 03-3828-9249

税込み  
四二〇〇円

部

注 文 書

流通センター  
取扱品

出版  
地方

須藤健一 著

オセアニアの人類学

海外移住・民主化・伝統の政治

ISBN978-4-89489-132-6 C3039 ¥4000E

〔お客様控え〕

ご氏名  
ご住所

お電話

月 日